

鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第56号

目次

- 令和3年度企画展・市制施行50周年
記念「KAMAGAYA1971」開催
..... 1～3
- 資料整理の現場から⑤..... 4
- 郷土資料館この一品⑮..... 4



令和3年度企画展/市制施行50周年記念

KAMAGAYA1971

～「市になったころの鎌ヶ谷」～を開催

令和3年(2021)は、昭和46年(1971)9月1日に当時の東葛飾郡鎌ヶ谷町が市制を施行して「鎌ヶ谷市」となってから、ちょうど50周年にあたります。この記念行事の一つとして、郷土資料館では『KAMAGAYA1971～市になったころの鎌ヶ谷～』をテーマに企画展を開催します。この号では、企画展の概要を懐かしい写真も交えてご紹介します。

会期は 9/18(土)～12/26(日)

今回の展示では、昭和30年代から市の広報担当が撮影し、近年郷土資料館へ移管された数多くの写真の内、昭和46年に撮影した約5,400枚から精選したものをパネルにして紹介します。またこれに加えて、同じく郷土資料館に移管された市の歴史公文書や長年の調査によって確認された個人・団体作成の歴史資料も展示します。

今回の企画展をとおして半世紀前の鎌ヶ谷の様子を知っていただくとともに、当時を知っている皆さんには懐かしく思い返していただければ幸いです。

会期 9月18日(土)～12月26日(日)。
ただし、毎週月曜日と9月21日(火)・23日(木)、11月3日(水)・23日(火)は休館します。

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4



佐津間白幡橋での野菜洗い(昭和46年11月)
時45分までをお願いします)

会場 郷土資料館2階展示室

展示内容を紹介します

《I 画像で見る!》

1. カラー写真で見る1971年の鎌ヶ谷
市制施行／小・中学校／幼稚園・保育園／施設／駅／出来事と景観
2. 待望の市制施行
3. 昔の選挙風景



鎌ヶ谷駅(昭和46年10月)



南部小学校運動会(昭和46年10月)

三	二	令和元	三〇	二七		二六	二二	一九	一七	一六		二三	二二	二一	九	八	六							
市制施行五十周年を迎えるに指定される	澁谷家・丸屋が国の登録有形文化財に指定される	新京成線が全線高架運行を開始	人口が十一万人を超える	新消防本部庁舎が完成	弓道場・アーチェリー場が開所	新学校給食センターが完成	きらり鎌ヶ谷市民会館が開館	成田スカイアクセス線が開通	下総小金中野牧跡が国史跡に指定	東武線連続立体交差事業が完了	新鎌ヶ谷地区街開きを行う	東武鎌ヶ谷駅がリニューアルする	「きぎょう号」の運行開始	鎌ヶ谷市総合基本計画(レインボープラン)を策定	クリーンセンターしらさが稼働	東武線が一部高架運行を開始	東武線の新鎌ヶ谷駅が開業	アクアセンターあじさいが稼働	姉妹都市提携の調印をする	ニュージールランドのワカタネ市と	ファイターズタウン鎌ヶ谷が完成	人口が十万人を超える	生涯学習推進センターが開所	生涯スポーツ都市宣言をする



初富駅(昭和四六年四月)

4. 役場と議会
5. 市域の施設
6. 1971年の出来事
7. 昭和の景観
8. 学び舎の記憶
9. 鎌ケ谷に県立高校が誕生した!
10. 空から見た半世紀前の鎌ケ谷

《Ⅱ 歴史資料で知る!》

1. 昭和46年の鎌ケ谷市歴史公文書
2. 50年前作成され伝わった諸家文書と団体文書



町長・町議会議員選挙の投票所風景(北部小・昭和46年4月)

企画展図録を販売

今回の企画展に合わせ、当時撮影した写真を収録した図録を9月18日(土)から販売予定です。あなたも50年前の鎌ケ谷にタイムスリップしてみませんか。図録はA4判48ページ、価格は500円です。なお、数に限りがありますのでお早めにごうぞ。

新型コロナウイルスへの対応

新型コロナウイルス感染防止のため、来館時にはマスクの着用と受付での入館者票への記入をお願いします。また、来館者が多い場合は入場制限を行う場合もあります。最新の情報は市ホームページ、または郷土資料館☎445-1030へお問い合わせください。なお、今回の展示ではギャラリートークは実施しません。



鎌ケ谷八幡神社前の露店(昭和46年6月)

年 代	主なできごと
昭和四六	鎌ケ谷高等学校が開校 鎌ケ谷市が発足する 県営水道が市内に給水を開始する 市制記念公園が完成
四七	鎌ケ谷グリーンハイツの入居始まる
四九	市章を制定する
五一	社会福祉センターが開所 現在の市役所新庁舎が完成
五二	市立図書館が開館
五三	市民憲章を制定する
五四	三橋記念館が開館
五五	北総線(小室―北初富)が完成
五七	鎌ケ谷西高等学校が開校
五九	市民体育館が開館
六〇	貝柄山公園が全面開園
六一	非核平和と都市宣言をする 公共下水道の一部供用を開始する
六二	鎌ケ谷市新総合基本計画を策定
平成三	鎌ケ谷市クリーンセンターが稼働 市民の森が開園 新図書館・郷土資料館が開館 北総線新鎌ケ谷駅が開業 鎌ケ谷警察署が開署 総合福祉保健センターが開所

鎌ケ谷市のあゆみ

【史料整理の現場から⑤】

続・1枚の牧絵図から

前号でご紹介したように、中野牧付の村々は中野牧だけではなく、下野牧や印西牧の野馬捕人足も負担していました。

野馬捕は天候等にも左右されますが、勢子人足が動員される野馬の追込みと捕馬に、1つの牧で2～3日ほどかかります。牧付村には1日あたり、村高およそ100石につき6人ずつの人足が割り当てられました。その割当について、寛政11年(1799)に中野・下野両牧の野馬捕人足数を書き上げた史料では、中野牧付が88ヶ村1,094人、下野牧付が54ヶ村579人となっています。また、印西牧に関する同様の史料では、13ヶ村354人となっています。

絵図には各牧の野馬捕人足数が、中野牧830～840人(別の絵図では950人とも)、下野牧1,480人、印西牧1,390人と記されています。下野牧・印西牧の人足数は、それ

ぞれの牧付村への割当と、中野牧に動員される人数との合計に近い値となっており、下野牧付・印西牧付の村だけでは賅えない分の人足を、牧の面積に比して村数・人数とも多かった中野牧付の村が、追加で勤めていることがわかります。

このような中野牧付の村々の負担について、「百年已来相勤め候御役」とする史料の記述があります。願書が作成された頃から100年ほど前にあたる、享保期(1716～1736)初期の野馬捕は、中野牧・下野牧を隔年で行っていたようで、下野牧の野馬捕の年には、中野牧付の村からも人足を出していたものと思われます。また、印西牧については、かつて中野牧で病馬が多く出た際、一部の野馬を中野牧から印西牧へ野替え(移し替え)したことから、その馬を中野牧付の村人足で捕るようになった、という伝承があったようです。これはすくなくとも、中野牧内の御囲が病馬の増加を契機として造られた、宝暦12年(1752)より前の話であろうと思われます。【次号へ続く】

郷土資料館この一品

電管用主幹制御器

(マスターコントローラー)

郷土資料館の最終コーナーである電車関係の展示コーナー唯一の実物展示資料です。

鉄道好きの方にはおなじみの資料ですが、電車を起動・加速させるときに扱うハンドルです。ハンドルの目盛りを進めたり、もどしたりすることで、スピードを上げたり、減速したり、ブレーキを掛けたりします。

第二次世界大戦以前から昭和40年代まで京成電鉄と新京成電鉄を走った※モハ100形電車などで使用されました。少し前までは

古い車両で見かけることもありましたが、さすがに最近では見かけなくなった形です

現在は、押して加速、引いて減速、ブレーキの電子制御のハンドルが主流のようです。

ゆりかもめは完全自動運転ですが、多くの車両はまだ運転士の技量が必要なようです。

※モーターのついた(電動車両)

普通車(昔、客車はイロハ3等級で表され、普通車は3等等級でハであった名残)であるから「モハ」と呼ばれます



電管用主幹制御器

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第56号 令和3年9月1日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館

住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502

メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp

ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html